

不公平なことばかりでした

第8期生 黒沢 祐介

小野ゼミを一言で表わすなら，“不公平”だと思います。

いや、これは別に、月曜のレポート提出に遅れたとき、自分達は一回もレポート提出に遅れたことがないかのように怒る先輩のことではありません。ケース発表のとき、「じゃあ先輩たちは完璧なものを作れるんですか!？」と言い返したくなるようなダメ出しをする先輩のことでもありません。こういう，“先輩たちは〇〇してないのにズルイ”という不公平のことではないのです。

それとは全く逆です。夜中に突然電話して論文の添削をお願いしたとき、「じゃあ今からすぐに見るね」と言ってくれる先輩のことです。いつも飲み遊びに誘ってくれる先輩のことです。僕が冒頭で言ったのは、こういう“先輩たちには〇〇してもらっているのに申し訳ない”という不公平です。この種の不公平を生むエピソードは本当にたくさんありすぎて、枚挙に暇がないというやつです。1年経って少しはまともな人間になって、「やっと恩返しができるな」と思っていたら、先輩たちはもう卒業してしまっていて、不公平は解消できませんでした。そんなのズルイし寂しい。

性格の悪い僕は、自分だけが嫌な気持ちになるのは嫌なので、後輩の9期生にも同じように不公平を感じさせようとイジワルをしました。僕のときよりももっと嫌な気持ちにしてやろうと。後輩が夜中に論文の添削をお願いしてきたときには、すぐに添削しました。ケースの発表のときにも、もっと良くなるようにとたくさんダメ出しをしました。たくさん遊びにも誘いました。

ハッハッハ、どうだ、これで不公平を感じただろう、9期生よ。その不公平を解消させる前に、僕は卒業してやる。ズルイだろ、寂しいだろ。嫌な気持ちになったなら、お前たちも後輩に同じようにイジワルをすることだな。

小野ゼミって、こんな感じだと思います。



先輩と飲みに行く著者（左端）



後輩と花火をする著者（左端）